



さらなる100年を目指して



九州大学病院

九州大学病院は100年以上の長い歴史を持ち、地域に根ざした西日本地域における診療・教育・研究の中核病院として重要な役割を果たしてきたが、高度先進医療への対応、医療人養成のための臨床教育の充実など新たな医療ニーズやシステムへの対応が必要なことから、平成9（1997）年度から病院再開発事業に着手し、平成21

（2009）年9月に新外来診療棟がオープンすることで事業が完了した。

新病院においては、省エネルギー化を図り地球温暖化防止に対応すべく、空調設備に氷蓄熱、温水蓄熱、床暖房には床蓄熱を採用するなど、環境に配慮した蓄熱システムを積極的に採用した。

蓄熱システムはCO₂排出量の少ない夜

間電力を有効利用し、昼間の最大電力を抑制するピークカット運用ができるため、電気料金の削減にも役立っている。また、開放的な吹き抜けを持つ外来棟のエントランス部の暖房に最適な床暖房システムは、快適な環境の提供とともに、コストと環境負荷低減も同時に達成しており、その評価は高い。

九州大学病院

- ・所在地：福岡県福岡市東区馬出3-1-1
- ・建築設計：(株)教育施設研究所
- ・建築施工：竹中・大林・九州特定建設工事共同企業体
- ・蓄熱設備設計：(株)新日本設備計画、(株)総合設備計画
- ・蓄熱設備施工：三建・日比谷・カンダン特定建設工事共同企業体、新日空・一工・不二特定建設工事共同企業体、新日本空調(株)
- ・延床面積：約135,389㎡ ・竣工：2009年

■蓄熱設備概要

蓄熱式空調システム 熱源機：熱回収型スクリュウヒートポンプチラー（氷蓄熱量7,000USRT・H）（温水蓄熱量5,200kW-H）〔日本熱源システム(株)〕、蓄熱式電気床暖房（敷設面積）1,100㎡〔フロアヒーティング(株)〕